

自分の家族や家庭生活を見つめ、家族関係をよりよくしようー多様な家族を認め合う学習ー

本校がある三沢市は米軍基地があり、町並みも含め国際色豊かな地域である。また、三沢市は英語特区を受けており、小学校から英語に親しむなど異文化に触れる機会も多い地域である。家族の仕事の都合で他県からの転入者も多く、生徒の生活環境は多様である。

そのような地域の特徴や生徒の実態から多様な家族を認め、現在の自分の家族、将来出会うであろう家族について考えるために、3年生でこの題材を扱うことにした。

1. はじめに

新聞やテレビでは、高齢化社会に伴う介護問題、幼児虐待、経済情勢の不安やストレス社会から来る病気の増大について報道されている。その報道を耳にするたびに「家族」のあり方について考えさせられる。

家族のかかわり方について学習できる機会は「家庭科」以外の授業では難しいにもかかわらず、プライバシーへの配慮という視点から、社会背景や多様な家族の存在まで踏み込んだ指導がなかなかできなかった。そのような反省から、今回は、本校のような大規模で多様な家族が存在する地域だからこそ必要な、家族のかかわりについての授業研究を行った。

2. ねらい

本授業を行うにあたり、生徒のプライバシーに配慮するために、学級担任から事前に生活環境についての聞き取り調査を行い、生徒の様子を把握した。また、表1のような内容でアンケート調査も行った。家族の好きなところを聞くと、男子は「養ってくれる」「頼りになる」女子は「見守ってくれる」「アドバイスをしてくれる」というところを好意的に受け止め、男女の受け取り方に違いが見られた。

自分の家庭生活に関心をもち、家族関係をよりよくすることができるようにするために、NHK「中学生日記～家族の歩き方～」のビデオを活用した。家事の担い手であった母親が理由も言わず不在になったことから、家族の問題が浮き彫りになっていくもので、主

人公が中学3年生というのも共感しやすいのではないかと推測した。生徒たちがこのビデオを通して、家族の問題点を見つけ、家族関係をよりよくする方法をグループごとに話し合うことによって家族について見つめることができるのではないかと考えた。また、自分の家族、将来出会うであろう家族について考えさせるために、できるだけ実生活の場面に即した教材を用いることが、地域の特徴と生徒の実態から有効であることを授業を通して検証したいと考えた。

表1 家族についてのアンケート

- | |
|--|
| <p>1) 家族ということばから、あなたはどのようなイメージをもちますか。(複数回答可)</p> <p>①明るい ②楽しい ③怖い ④厳しい ⑤頼りになる
⑥あたたかい ⑦うるさい ⑧冷たい ⑨やさしい
⑩安心 ⑪尊敬 ⑫信頼 ⑬その他</p> <p>2) あなたは家族のどのようなところが好きですか。(複数回答可)</p> <p>①相談にのってくれる ②頼りになる
③面倒を見てくれる ④やさしい ⑤アドバイスしてくれる
⑥しかってくれる
⑦友達のように接してくれる ⑧見守ってくれる
⑨養ってくれる ⑩その他</p> <p>3) あなたは家族に対して、何か直してほしいところはありますか。</p> <p>4) あると答えた人は理由を書いてください。</p> |
|--|

3. 小単元指導計画

- 自分のまわりの家族を調べてみよう (1時間)

家族の写真やVTR（さまざまな家族 NHK）から多様な家族の生活の仕方があることに気づき、家族について考える。

○家庭のはたらきと家事の担い手（1時間）

家庭内の仕事から家庭のはたらきについて考える。

○自分と家族の関係を考えよう（1時間 本時）

家族の問題点を話し合う活動を通して家族関係をよりよくする方法を考える。

4. 本時の指導

●目標

ビデオの視聴から、家族のかかわり方の問題点を見つけ出し、改善方法をグループで話し合うことによって、よりよい家族関係についての考えをまとめることができる。

●授業展開

導入	前時のふり返り
展開	①家族の写真（表情）を見ての感想。 ②家族の生活（VTR）から、家族の問題点を見つける。 ③問題点をあげ、グループごとに話し合う。 ④グループごとの意見発表。 ⑤家族のその後について。
まとめ	⑥卒業生から～家族について、今思うこと ⑦授業の感想を記入する。

5. まとめ

本校の3学年の学級数は5クラスであるが、本授業を行うにあたり4クラスで学習形態やグループ編成、ワークシートや教材の効果的な活用方法を思考した。

学習形態は一斉とグループ学習の組み合わせが効果的であった。個で話をしっかり聞く、考える場面と互いの意見交流の場面を切り替えることができる。

まとめには、本校卒業生である大学生が書いた手紙を活用した。当初の計画では大学生の母と本人に家族についてビデオを通して語ってもらう予定であったが、母親の意向もあり断念した。大学生の手紙の朗読は生徒の成長を間近で見ている学級担任に依頼した。

生徒たちが書いたワークシートから

・最近、自分の家での生活を思い出してみると、塾のある日は、一人でごはんを食べて、帰ってくるともうお父さんは寝ているので、一日のうちに会うのが朝の1分だけという日がありました。やっぱり、家族にはコミュニケーションがなければバラバラになってしまうと思います。まず、あいさつからしっかりしようと思いました。また、家族みんなと一緒に何かしたり、どこかに行ったりするのもコミュニケーションにつながると思います。自分の家でも、小さい頃みたいに、また家族3人で一緒に映画を観に行きたいです。（女子）

・僕の家族は、あまり関係が良くありません。会話がないうちやけんかもよくあります。でも、このごろはそれがなくなってきました。それは、家族みんながそれではだめだということに気づいたからです。今日受けた授業でも、いろいろな問題点がありましたが、全員が心持ちを変えたことで明るい生活になってきました。やっぱり心持ちはとても大切だなと思いました。友達の見解の中に、家を掃除するというのがありますが、自分もそれを実践してみようかなと思います。もっと明るい家族にできるように頑張っていきたいです。（男子）

家族や家庭を見つめ、よりよくしようとする実践的な態度がワークシートから感じられた。しかし、本授業では家族を見つめることができたものの、地域、社会についてまで深めることができなかった。また、卒業生の手紙より、母と子という家族構成で互いに協力し、生活している2人に登場してもらったビデオを視聴の方が生徒の考えが深まったように思う。指導計画でもあと1～2時間まとめの時間が必要であり、計画の見通しの甘さを痛感した。まだまだ、課題も多くの授業であったが、家族について真剣に受け止める授業について研究できたことは大きな財産となった。

参考文献・参考Webページなど

・「東北発！地域に根ざした技術・家庭科の授業」（弘前大学出版会）